

獨伊調停の奏効

【ワシントン廿日路透電】獨伊兩國政府の最後通牒的要求をうけた結果、トランスシルバニア問題に關する兩國の調停案を受諾するに決した旨公表した。

(ブダペスト廿日路透電) ルマニア政府は廿日獨伊兩國政府の最後通牒的要求をうけた結果、トランスシルバニア問題に關する兩國の調停案を受諾するに決した旨公表した。

(ブカレスト廿日路透電) ルマニア政府は廿日獨伊兩國政府の最後通牒的要求をうけた結果、トランスシルバニア問題に關する兩國の調停案を受諾するに決した旨公表した。

(ワシントン廿日路透電) 獨伊兩國政府の最後通牒的要求をうけた結果、トランスシルバニア問題に關する兩國の調停案を受諾するに決した旨公表した。

獨伊調停の奏効

【ワシントン廿日路透電】獨伊兩國政府の最後通牒的要求をうけた結果、トランスシルバニア問題に關する兩國の調停案を受諾するに決した旨公表した。

(ブダペスト廿日路透電) ルマニア政府は廿日獨伊兩國政府の最後通牒的要求をうけた結果、トランスシルバニア問題に關する兩國の調停案を受諾するに決した旨公表した。

(ブカレスト廿日路透電) ルマニア政府は廿日獨伊兩國政府の最後通牒的要求をうけた結果、トランスシルバニア問題に關する兩國の調停案を受諾するに決した旨公表した。

(ワシントン廿日路透電) 獨伊兩國政府の最後通牒的要求をうけた結果、トランスシルバニア問題に關する兩國の調停案を受諾するに決した旨公表した。

バルカンの癌を一掃

【ワシントン廿日路透電】獨伊兩國政府の最後通牒的要求をうけた結果、トランスシルバニア問題に關する兩國の調停案を受諾するに決した旨公表した。

(ブダペスト廿日路透電) ルマニア政府は廿日獨伊兩國政府の最後通牒的要求をうけた結果、トランスシルバニア問題に關する兩國の調停案を受諾するに決した旨公表した。

(ブカレスト廿日路透電) ルマニア政府は廿日獨伊兩國政府の最後通牒的要求をうけた結果、トランスシルバニア問題に關する兩國の調停案を受諾するに決した旨公表した。

(ワシントン廿日路透電) 獨伊兩國政府の最後通牒的要求をうけた結果、トランスシルバニア問題に關する兩國の調停案を受諾するに決した旨公表した。

獨伊、ルマニアに絶對的安全を保障

【ワシントン廿日路透電】獨伊兩國政府の最後通牒的要求をうけた結果、トランスシルバニア問題に關する兩國の調停案を受諾するに決した旨公表した。

(ブダペスト廿日路透電) ルマニア政府は廿日獨伊兩國政府の最後通牒的要求をうけた結果、トランスシルバニア問題に關する兩國の調停案を受諾するに決した旨公表した。

(ブカレスト廿日路透電) ルマニア政府は廿日獨伊兩國政府の最後通牒的要求をうけた結果、トランスシルバニア問題に關する兩國の調停案を受諾するに決した旨公表した。

(ワシントン廿日路透電) 獨伊兩國政府の最後通牒的要求をうけた結果、トランスシルバニア問題に關する兩國の調停案を受諾するに決した旨公表した。

火を吐く英高射砲

【ロンドン廿日路透電】英高射砲隊は昨日、獨逸領内に飛来した獨逸機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

倫敦一帯再び殺氣

【ロンドン廿日路透電】倫敦一帯は再び殺氣に包まれた。獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

新體制運動に呼應

【東京廿日路透電】新體制運動に呼應する動きが、各地で起きている。獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

貿易界でも大飛躍

【東京廿日路透電】貿易界でも大飛躍を遂げた。獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

對英攻勢の一環

【ワシントン廿日路透電】對英攻勢の一環として、獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

獨伊會談成果に満足

【ワシントン廿日路透電】獨伊會談の成果に満足している。獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

緊張のギリシヤ

【ワシントン廿日路透電】緊張のギリシヤ。獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

希臘の動向を重視

【ワシントン廿日路透電】希臘の動向を重視している。獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

獨軍司令部発表

【ワシントン廿日路透電】獨軍司令部が発表した。獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

歸國挨拶

各位に歸國の挨拶を申し上げます。獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

淋病に悩む方へ

淋病に悩む方へ。獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

緊張のギリシヤ

緊張のギリシヤ。獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

希臘の動向を重視

希臘の動向を重視している。獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

獨軍司令部発表

獨軍司令部が発表した。獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

緊張のギリシヤ

緊張のギリシヤ。獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

FERRO CALCIO QUINA TARENTI
四季を通じて栄養剤の王、最高級食慾促進劑
規那鐵、カルシウム(トレンチウム)製劑
サンパウロ・レイウエイ線サンカタートン電話108

T. SASAOKA
C. Postal 1133 S. Paulo
市場二十五番

亞細亞旅館
聖市グリア街二九八

越中富山 長森聖榮堂
賣藥輸入
本店 富山市 堀端町
支店 高山市、市野田二九九

淋病に悩む方へ
小生事二年間淋病で苦しみました。聖市アベニュー
サンジョン五三六番アウトル・フェイオ氏の治療
を受けるに及んで、淋病は完全に治癒されました。淋病は、完全に治癒されました。淋病は、完全に治癒されました。

緊張のギリシヤ
【ワシントン廿日路透電】緊張のギリシヤ。獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

希臘の動向を重視
【ワシントン廿日路透電】希臘の動向を重視している。獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

獨軍司令部発表
【ワシントン廿日路透電】獨軍司令部が発表した。獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

緊張のギリシヤ
【ワシントン廿日路透電】緊張のギリシヤ。獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

希臘の動向を重視
【ワシントン廿日路透電】希臘の動向を重視している。獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

獨軍司令部発表
【ワシントン廿日路透電】獨軍司令部が発表した。獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

緊張のギリシヤ
【ワシントン廿日路透電】緊張のギリシヤ。獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

東 鳳麟
AZUMA KIRIN-AZUMA KIRIN-AZUMA KIRIN
ASAHI TOYOKO-ASAHI TOYOKO-ASAHI TOYOKO

緊張のギリシヤ
【ワシントン廿日路透電】緊張のギリシヤ。獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

希臘の動向を重視
【ワシントン廿日路透電】希臘の動向を重視している。獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

獨軍司令部発表
【ワシントン廿日路透電】獨軍司令部が発表した。獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

緊張のギリシヤ
【ワシントン廿日路透電】緊張のギリシヤ。獨逸機が、倫敦一帯に飛来した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。英高射砲隊は、この機を撃墜した。この機は、英領内に墜落した。

準世二は朝か

司法大臣の裁決により 歸化申請の資格を獲得

一九三八年四月二十五日公布の伯國改正國籍法によつて、その本國で兵役の義務を果した者でなければ歸化の資格なしと...

重た問題(化)

司法大臣の最近の裁決によつて、さしほ心算されてゐたものを見事に解決された、即ち最近テオドール・デ・モ...

國勢調査に忠實なれ

七大統領全國民に訴ふ

セリオ大がところであつた、その要旨は左の通りである。國勢調査の重要性は甚大な...



伯國國勢調査の算決

代表チームの横顔

遅まし更新の氣!

誇る鋭攻堅守サンパウロ から完全に脱し、今までの伯國の大勝を博したことは...

伯國國勢調査の算決 (絶) 伯國國勢調査の算決 (絶) 伯國國勢調査の算決 (絶)...

勝つて来いよ! 行け! 晴れた神宮國民體育大會へ二百名の陸軍の若人の中から...

陸上代表壯行會 三日午後六時半 日本俱樂部にて 出陣式が挙げて、毎夜劇場附近に...

潮川技師殺害 共黨カニボス殺害後、技師潮川氏が殺害された。...

墓場に幽霊現はる! ビラマリアナの住民戦々兢々 捕へて見れば「足」があつた...

異怪の夜深 最近市内ビラマリアナの墓場に幽霊が現はる。...

胸のバッチも鮮やかに 母國觀光團顔合せ 今夜八時から日本俱樂部で...

球野伯全 選豫郊近 昨日カシヤンキョウ球場で、全伯國選手が選出された。...

緋飾を振るは誰? けふの熱戦! サントス、制覇街道邁進...

更に民選代表二人 オウリニヨスとブルデンテから...

思想を止めよ!! 純然たる委託販賣實施 産組中央會、使命達成に邁進...

古レコード 高價買入 三浦愛書堂 廣 告...

歸伯御挨拶 謹啓 謹啓 謹啓...

御知らせ 各 位 花城清安...

謹告 謹告 謹告...

日本總領事館 昭和十五年九月一日...

NOTAS E EDITORIAES

Faz dez annos desde que foi estabelecido o governo do Presidente Vargas e nesse lapso de tempo o Brasil progrediu de maneira notavel, no meio da convulsão, estonteadora da situação internacional, soluçionando intelligentemente nemerosos problemas internos, e hoje a sua posição no seo das nações latino-americanas é a mais invejavel, a mais solida. Não só na esphera das nações latino-americanas, como em todo o continente americano e no mundo inteiro, o Brasil construiu para si uma das posições mais favoraveis. E o seu futuro é dos mais grandiosos.

O Censo Nacional, que se realiza hoje, 1.º de Setembro, em todo o territorio brasileiro, será uma demonstração objectiva de todas as actividades nacionaes, e, possui portanto, uma profunda significação.

No Brasil é costume effectuar-se um recenseamento nacional cada dez annos, mas nem sempre foi possível realizal-o com regularidade. O censo de 1930 não foi realizado devido á situação interna excepcional. — Destarte o recenseamento que vai ser feito agora demonstrará o progresso do Brasil nos ultimos 20 annos ou seja num quinto de seculo. Não resta a menor duvida de que, nestes quatro lustros, o Brasil realizou um progresso espantoso. E que esse progresso se patentead em numeros exactos e precisos é um desejo commum das autoridades e do povo brasileiro, bem como daqueles que tem a ventura de viver nesta terra.

Por conseguinte, todo o povo brasileiro adere com toda a sua boa vontade e não mede esforços em colaborar nesta importante e patriótica iniciativa do governo, não só resfendendo com lealdade e exactidão aos quesitos do censo, mas contribuindo individualmente, na medida do possível, e de modo activo, para a perfeita consecução desse trabalho nacional. Isto é um dever do povo, e todo os japonezes que aqui trabalham e vivem tambem devem cumprir seu dever, com toda boa vontade, pois a occasião é das mais propicias para manifestar sua gratidão á terra que os acolheu hospitaleiramente. Essa gratidão pode ser manifesta pela simples e leal contribuição, dos nipponicos aqui residentes, nos trabalhos do Censo Nacional.

Entre os subditos nipponicos domiciliados em territorio brasileiro ha velhos e mulheres, que desconhecem ainda o ambiente brasileiro e estão pouco familiarizados com o idioma portuguez. De maneira que os moços, com capacidade de ler

o portuguez e conhecedores das coisas brasileiras, cabe a tarefa de cooperar na obra do recenseamento. É um dever natural que todos os homens ins-tituídos da colonia nipponica devem cumprir, patentead assim o seu amor e sua gratidão ao Brasil. A proposito, temos a satisfação de citar um bellissimo exemplo, digno de imitação. Trata-se da Fazenda Tieté. A administração dessa fazenda, logo que a Prefeitura Municipal enviou os quesitos referentes ao censo, mandou distribuir folhetos explicativos aos colonos japonezes, com os quesitos dos censos demographico e agricola, acompanhados das respectivas traducções em japonês, e ainda mais, acrescentando explicações cuidadasas. Facilitou-se, desse modo, o trabalho dos recenseadores, auxiliando a compreensão daquelles que ainda ignoram ou pouco conhecem o idioma portuguez.

Este facto prova tambem a cooperação intima que existe entre as autoridades municipais e a Fazenda Tieté. A iniciativa desta merece es aplausos mais calorosos, de nossa parte.

Os nipponicos, que na terra natal tiveram experiencias de recenseamento, tem o dever de produzir o melhor resultado nesta grande obra nacional.

Os jornaes do mundo inteiro pensavam que o Nippon participasse do eixo Berlim-Roma, quando o sr. Toshio Siratori, ex-embaixador do Nippon na Italia, foi nomeado conselheiro do ministerio do Exterior. Havia razão para se pensar assim, pois o sr. Siratori, quando chefiava a representação diplomática do Imperio na terra de Mussolini, preconizou a conclusão de uma aliança do Nippon com as potencias do eixo. Entretanto o conselheiro Siratori, ao ser abordado pelos representantes da imprensa declarou:

— A politica externa do Nippon, doravante, não poderá ser conduzida sem levar em consideração o problema economico. A nossa aproximação do eixo Berlim-Roma cu do grupo Londres-Washington, depende unica e exclusivamente do factor economico". Muito natural e logica a declaração do embaixador Siratori. Os que pensavam na ligação do Nippon ao eixo teuto-italiano, ficaram perplexos ante as palavras do diplomata nipponico. Mas é necessario frizar que o Imperio Nipponico, actualmente, procura seguir uma politica propria, independente e firme, no meio da violenta convulsão que o mundo está atravessando. E tal orientação é indispensavel, uma vez

Em Batavia a Missão Economica Japoneza

Declarações á imprensa

BATAVIA, 27 (Dômei) — A Missão Economica Japoneza, chefiada pelo director da "Mitsui Bussan" chegou hontem a esta capital. Entrevistado pelos jornalistas, o chefe da Missão expoz os objectivos da delegação, declarando:

"Tem sido sempre nosso grande desejo ver concretizado o plano de intensificação das nossas relações commerciaes com as Indias Holandezas. Na ce-

casião em que deixava o meu país, os representantes do mundo industrial solicitaram-me insistentemente para que eu me esforçasse em realizar um accordo commercial com o vosso país, a fim de incrementar as nossas relações, tanto commerciaes como de amizade".

Ao finalizar, o chefe da delegação disse que iria dentro desses dias entrevistar-se com o Governador.

União das industrias textis

Tokyo, 29 (Dômei) — A Federação dos Exportadores de Fios e Tecidos de algodão, julgando indispensavel a reforma dos estatutos para colaborar nos grandiosos empreendimentos do novo regimen, convocou hontem a reunião dos representantes das companhias filiadas, na sede da Federação dos Industrias de Algodão de Osaka e após demorada conferencia tomou as seguintes deliberações:

- 1.º) Unificação das empresas exportadoras de productos algodoeiros a fim de tornar mais efficientes os serviços de controle.
- 2.º) Anexar integralmente as federações actualmente existentes á nova entidade a ser creada.
- 3.º) Controle completo da exportação dos fios e tecidos de algodão pela nova empresa.

que o Imperio está em enhado ao estabelecimento de uma nova ordem na Asia Oriental e a construção de uma nova estrutura politica interna.

Dahi tambem a razão da remodelação radical que o ministro Matsukata está levando a effecto no ministerio das Relações Exteriores.

Acompanhado de sua esposa, regressou hontem, do Rio de Janeiro, pelo segundo avião da "Vasp", o sr. Interventor Adhemar de Barros. Sua excia., que se encontrava na capital da Republica desde o dia 29 com o fim de solucionar problemas de interesse do estado, teve uma occorrida recepção.

Em visita, percorre no momento o interior do Estado, e jovem universitario japonês Kazuo Kuwajima, filho do embaixador do Japão junto ao governo brasileiro.

A minha face

Uma revista litteraria norte-americana, ha annos que vem perguntando aos intellectuaes: "Que é que lhe interessa mais neste mundo cosmopolita de hoje?" Uma multidão de pessoas tem respondido. Lembro-me duma que, respondendo, escreveu: "A minha face". Titulo palpitante para um assumpto não menos attractivo. Claro que não vou fallar da face delle.

Quando até aquellas pessoas ás quaes muito amo, duma hora para outra, sem eu ter conhecimento da causa, se tornam frias para commigo, e me abandonam, então, nesse momento de extrema desolação, todo o meu ser se me torna impotente. Sobrevem-me um afrouxamento geral. Até os pensamentos vivificantes me fogem.

O choque é grande. Descontrola-me, fulminante. Tal é o sentimento elevado que nutro por tal pessoa. Superficie de reflexão: minha face. Superficie de precisão? Não me foi dado verificar. Mas instantanea, sim. Duração: sem limites determinados. Ferimento: profundo, mas susceptível de cura, não raro, rapida. São perdoados os que me fazem o mal. Consequencia para mim: benefica, porque me obriga a rectificação do procedimento em relação a uns factos ou quaes pontos. Consequencia intima: exaltação do "complexo da inferioridade" que em mim existe. Depressão moral, angustiante.

Minha face, então, chora. — M.

"O noticiario telegraphico publicado pelo BRASIL ASAHI" é fornecido pela Agencia Dômei, japoneza.

Chungking em ruinas

Hong-kong, 29 (Dômei) — Os ininterruptos raids da aviação nipponica sobre Chungking, levados a effecto com grandes resultados determinaram quasi que completa inacção dessa cidade, Capital do governo Chang.

Segundo os informes vindos de Chungking, o funcionamento de forças electricas e de agua acha-se interrompidas.

O aspecto é de uma cidade morta, com todos os movimentos paralyzados.

O principal estabelecimento de imprensa, sendo atingido por bombas está em parte destruido e além disso pelo não funcionamento das machinas a tiragem do jornal é minima, enquanto que a maioria dos jornaes locais acha-se inactiva.

Nas zonas onde ha falta de agua, esta é trazida do rio Yang-Tse, mas devido ao reduzido numero de trabalhadores o preço desse liquido é elevatissimo.

Estando a cidade nessas condições insustaveis a opinião geral é de abandonar Chungking, reinando no seo da população grande afflicção que se accentua cada vez mais.

Enviado especial inglez ás Indias

Londres, 26 (Dômei) — O ministro das provisões de Guerra inglez, Sr. Morrison publicou um communiqueo notificando a nomeação do presidente do "Banco Midland", Sr. Alexander Roger para de legado especial ás Indias. Ele ira fazer um estudo sobre as possibilidades de augmento na produção de material belico, como tambem sobre o seu fornecimento ao Oriente Proximo.

Durante a sua permanencia em Delhi, o sr. Roger participará da conferencia dos representantes da Australia, Nova Zelandia, União Sul Africana, Federação do Sul, Birma, Hong-kong, Ceylão, Malaya e Africa Oriental.

"Yahata Maru", novo paquete da linha transpacifica

Tokio, Julho. — O novo paquete luxuoso da N. Y. K. o "Yahata Maru", irmão do "Nitta Maru", — que fez ha pouco a sua viagem inaugural, como foi noticiado por esta folha, — está terminal, tendo sido experimentado em Nafasshi, dia 22 de junho.

O paquete foi construido nos estaleiros de Mitsubishi em Nayasaki e possui a tonnage bruta de 17.200 toneladas, podendo desenvolver a velocidade maxima de 22.474 nós. Foi construido como o seu navio irmão para a rota europeia, porém por causa da guerra europeia elle foi desviado para a linha Yokohama, San Francisco, na sua primeira viagem para a America, deixando Yokohama a 31 de Agosto, o "Yahata Maru" fará uma parada em Honolulu quando do seu retorno ao Japão. A partir de sua segunda viagem, o navio seguirá a rota de San Francisco.

Estabelecimentos militares chineses bombardeados

Tokyo, 26 (Dômei) — Segundo noticias correntes a esquadra em operações no sul da China, fez varios raids na parte leste da provincia de Cantão.

Neste raide, foram bombardeados importantes estabelecimentos militares onde se realizaram contrabandos de materias bellicas e sendo grandes os danos causados pela nossa aviação.

Um novo regimen e as grandes empresas commerciaes

Tokyo, 26 (Dômei) — O Congresso dos membros do comite de controle dos preços está adiando os trabalhos para apurar ao governo, o novo plano de, adherindo ao novo regimen, reorganizar as empresas economicas.

Consta que a nova orientação visa a estreita cooperação das grandes empresas e commerciaes com o novo regimen.

特に日本人間に多くのフレ
ゲースを持つて居ります

OFFICINA DE CONCERTOS DE CALÇADOS
"COMETA"
am 10 minutos saltos
am 20 minutos mais sola
Rua Anhangabáhu 83

Introdução

Visitei, pela primeira vez, o Nippon, berço de meus paes, participando da "Caravana de Intercambio Cultural Brasil-Japão", organizada pelo Gremio Cultural Brasileiro Nipponico de São Paulo. A Caravana, composta de 22 membros, e chefiada por Mario Botelho de Miranda, presidente daquelle gremio, recebeu — é necessario frizar — de Sr. Excias. o sr. Presidente da Republica e sr. Interventor Federal em São Paulo, valiosos auxilios moraes e materias, pelo que todos os caravanistas se mostram profundamente gratos.

O facto de os srs. Presidente da Republica e Interventor Federal terem apoiado e auxiliado a Caravana, repercutiu fortemente, como era natural, nos circulos officiaes e particulares japonezes, resultando dahi uma recepção de extraordinario brilho, tendo sido os caravanistas recebidos quasi como hospedes

de Estado, não só no Nippon, como no Mandchukuo e na Coréa. Tambem não podemos esquecer o grande esforço do dr. Shigetuna Furuya, ex-ministro do Japão na Republica Argentina, que na qualidade de conselheiro do Gremio Cultural Brasileiro Nipponico de São Paulo, não media sacrificios para que a Caravana fosse muito bem recebida no Imperio do Sol Nascente. Para isso Sr. Excias. aproveitou-se de seu vasto circulo de relações nas espheras dirigentes nipponicas, ora apresentando-lhes os membros da Caravana, ora informando-lhes o caracter da missão confiada á mesma.

E no Nippon, tanto o ministerio das Relações Exteriores ("Gaimushô"), como as duas sociedades culturais, a "Kokusai Gakuyukai" (Sociedade Internacional dos Amigos de Estudantes) e "Toyo Bunka Gakukai" (Sociedade de Cultura Oriental), que patrocinaram a nossa viagem no Japão e Man-

88 dias no Extremo Oriente

José YAMASHIRO

dehukuo, em combinação com aquelle departamento official e a direcção da Estrada de Ferro Sul-Mandchuriana (Mantetsu), foram de uma gentileza unica, para com a Caravana, não obstante as dificuldades inherentes aos periodos de guerra.

E aqui quero deixar consignada a minha gratidão, como um dos membros da "Caravana de Intercambio Cultural Brasil-Japão", a todas as entidades officiaes e particulares, bem como a todas as pessoas, que, directa e indirectamente, nos auxiliaram, nos annularam de gentilezas e amabilidades, tanto no Nippon, como no Mandchukuo e na Coréa. Agradeço especiaes aos srs. Visconde Inaba, representante do Gaimushô, Teitomu Kanazawa, da Kokusai Gakuyukai e Kichichi Nakamura da Toyo Bunka

Gakkai; Sinzi Yoshida e Takuo Kokubo, do Mantetsu, que nos acompanharam durante to a a nossa estadia no Extremo Oriente, servindo-nos de guias e orientadores. Tambem um muito obrigado ao amigo Yonekura, interprete do Consulado brasileiro de Yokohama, que muito trabalhou como interprete dos caravanistas, durante a viagem destes pelo Nippon.

O relatório official da viagem da "Caravana de Intercambio Cultural Brasil-Japão", será feito por quem de direito. Eu aqui quero apenas narrar minhas impressões pessoais. Nada mais que notas e apontamentos apressados tomados no meu diário, durante uma viagem rapida.

19-4-940 I

O "Brasil Maru" entrou pela uma hora da madrugada na bahia de Tokyo e desceu ancoras, á vista do porto de Yokohama.

Vê-se a cidade que dorme, atravez de uma neblina fraca. Luzes. Navios que parecem sombras no silencio da noite.

A's 6,30 a policia maritima chegou juntamente com os inspectores alfandegarios. Os nossos papeis e as nossas bagagens são examinados com rapidez. Entretanto, os represen-

tantes da imprensa procuram-nos. São os reporters dos jornaes "Asahi", "Nichi-Nichi", "Yomiuri", "Japan Times" e da agencia "Dômei". O Miranda e outros caravanistas concedem entrevistas.

Todos os caravanistas se reúnem no "smoking-room", para enfrentar as objectivas dos jornaes. E enthusiasmos, dão "pique-piques". Os jornalistas tokyenses não sabem o significado do pique-pique. Alguem lhes explica. Outra chapa, a turma soltando o classico "pique-pique".

O navio encosta-se ao caes ás 9,30. Centenas de escolares, com bandeiras

brasileiras, paraguayas e japonezas, gritando "banzai", animam a chegada do transatlantico, que conduz a Missão Economica Brasileira, o dr. Claudio de Souza, illustre homem de letras, convidado pelo governo japonês e a Missão Economica Paraguaya, alem da nossa Caravana de Intercambio Cultural Brasil-Japão. Muitos estudantes de escolas superiores, com os seus uniformes, bonet e os oculos... Alguns sobem a bordo e nos cumprimentam.

(Cont. no proximo num.)

